

秩父病院OFF情報

ヨットに行きました

今年、数回に分けて院長先生が職員をヨットに招待してくれました。魚釣りは、院長先生の操縦で、釣れそうなところに、連れてってもらいました。釣ってすぐの魚は、やはり新鮮で美味しかったです。みんなで思いっきり、遊べました!!
ヨットで、松崎の皆様と、乾杯。
院長先生をはじめ松崎の皆様、ありがとうございました。



外来担当表

		月	火	水	木	金	土
外科	午前	花輪	大野	山田	守	花輪	大野
	午後	山田	山田	守	片田	守	金子幸雄
総合内科	午前	坂井 平原	坂井 平原(第3.5) 福田千晶(第2.4)	坂井(第2.4) 福田千晶	福田千衣里	福田千衣里 平原	福田千晶
	午後	福田千衣里	福田千晶	平原	坂井	福田千晶	坂井
専門外来	午前	大久保(神経内科)	佐藤(循環器) 畠川(腫瘍内科)	本間(第3.5、膠原病) 豊崎(循環器)	船生(肝内) 新井(乳腺)	水野(第2、糖尿病)	
	午後	大久保(神経内科)	佐藤(循環器) 畠川(呼吸器内科)	本間(膠原病)	水野(第2、糖尿病)		
歯科	午前・午後 共通	長谷川義朗	長谷川義朗	長谷川義朗	長谷川小百合	長谷川義朗	長谷川義朗(第2.4.5)
		原島	原島	原島	富松	原島	原島(第1.2.3.4)
		富松					

医療法人 花仁会 秩父病院
〒369-1874 埼玉県秩父市和泉町20番 TEL:0494-22-3022(代表) FAX:0494-24-9633 E-mail:info@chichibu-med.jp
受付時間 午前8:30~11:30 午後12:30~17:30 診療時間 午前9:00~12:00 午後15:00~18:00 休診:日曜・祝祭日



秩父病院だより

2016年新年号
No.45



概要 秩父市泉町20番
延べ面積 61.60㎡(一階、木造)
定員 10名
確認済証証明日 平成27年4月14日



「花の子ハウス開園」 院長 花輪峰夫

平成27年10月1日 院内保育園「花の子ハウス」を開園しました。

院内保育所の整備はこの10年来考えていたことです。医師会で整備出来ないかとか、市立病院の保育施設を利用させてもらえないものかとか、それなりに検討、打診はしたこともありましたが、結局、落ち着くべき最良の結果になったと思っています。

第1に職員が働きやすい、特に女性に優しい職場への環境改善という意味合い、第2に医師を含む応募者に選ばれる病院の条件として、さらに第3として子供がいると職場が明るく活気が出るという、子供効果をも期待しています。

また、近年、当院では職員の絶対数に不足はないものの、看護師始め職員は若い人達が多く、産休、育休等で夜勤が出来なくなる職員が増加して来ています。この施設が夜勤者確保に繋がると病院にも母親にもメリットは大きいと考えています。

ともかく、子供が多いと言うことはめでたいことであり、当院が地域の少子化への流れを少しでも緩やかにできれば本望であると思っています。今後は出来る限り良い保育施設、単なる託児所でなく、幼児教育にポリシーを持った、幼稚園を越える院内幼児教育施設として、発展させたいと考えています。

医師主導臨床研究のご紹介

「秩父地域における胃がんリスク(ABC)検診 および大腸がん(便潜血)検診」

外科部長 大野哲郎

2013年2月、「内視鏡検査において胃炎の確定診断がなされた患者」がピロリ菌除菌の追加保険適用になりました。これによってピロリ菌感染による胃炎、すなわち胃がんのリスク群に対するピロリ菌除菌療法が健康保険で行なえるようになりました。ピロリ菌に感染した人が胃がんを発症するリスクが高いことは広く知られています(図1)。また、ピロリ菌感染者に除菌治療を行うことによって胃がんの発生リスクを減らせることもわかっています。

この胃がんのリスク群を血液検査のみで拾い上げる検診がABCリスク検診です。ABCリスク検診では、血中ペプシノゲン値により胃粘膜の萎縮(荒れている状態)の程度を二分(胃粘膜萎縮の強い群を陽性)し、ピロリ菌感染の有無と組み合わせてA群、B群、C群の3群に分け(図2)、B群、C群を胃がんハイリスクと位置づけ、胃内視鏡による精検を行うというものです。

幹らによれば、2006年度の40歳以上の高崎市民のうち16,955人が受診し、うち50.7%が要精検(B群+C群)となり、そのうち53.7%が胃内視鏡による精検を受け、44人(0.26%)で胃がんが発見されたといえます。これは同地域で施行されていた胃バリウム造影検診の胃がん発見率0.17%に比べ有意に高率でした。

秩父市のがん検診の受診率は非常に低い状況にあります。平成25年度の胃がん検診受診率は1.0%、大腸がん検診受診率は3.8%であり、いずれも県平均、全国平均を大きく下回っています。今回われわれは、秩父地域の住民1,000名に対して、胃がんリスク(ABC)検診を臨床研究として実施する予定です。また、同時に同集団に対して大腸がん(便潜血)検診を行います。この方式であれば検診受診率の向上が期待できるか否かを検証し、秩父地域住民の胃がんリスク群の割合、便潜血陽性者の割合も調査します。胃がんリスク群(B群+C群)に分類された方、便潜血陽性の方には保険診療でそれぞれ、胃内視鏡による精検、大腸精検を受けていただきます。その結果を解析し、本検診のがん発見率、費用対効果について検討します。

検診は地区ごとに順次お願いしていくかたちになります。採血および便潜血検査の費用は当院が負担いたします。その後の精密検査にかかる費用は健康保険でお支払いください。秩父のがん予防と早期発見のためご協力をお願いします。

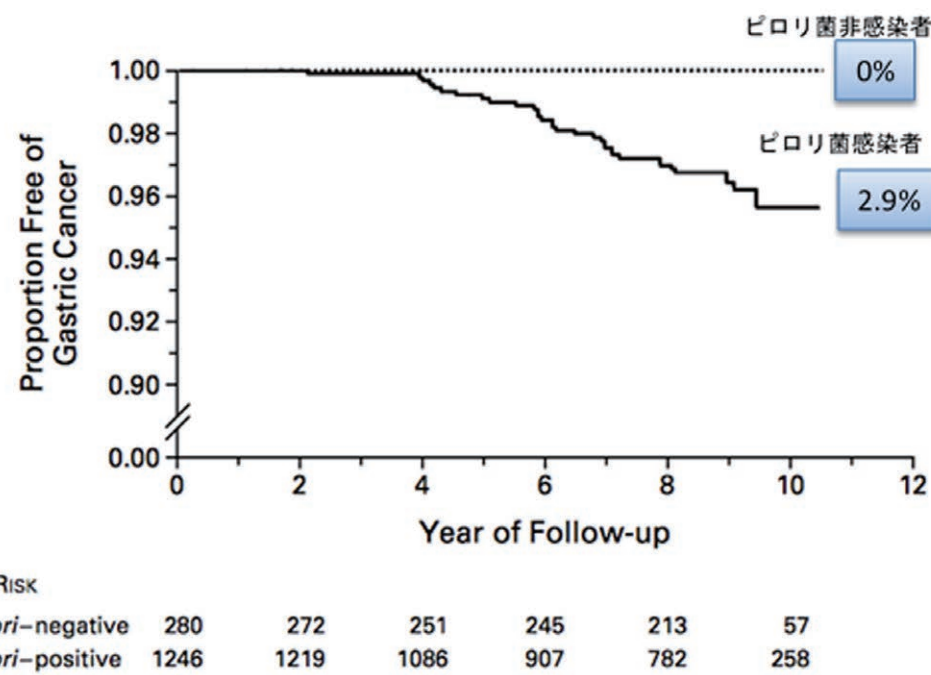


図1
ピロリ菌非感染者280名、感染者1246名を10年間観察した結果、ピロリ菌感染者からは2.9%の胃がんが発見されたのに対し、非感染者からは発見されなかった。(Uemura N et al. N Engl J Med, Vol. 345, No. 11 · September 13, 2001)

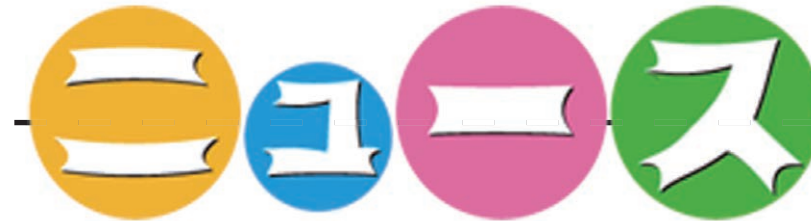
同日内視鏡検査 発見胃がんの頻度(14年間)

n=8,286		ピロリ菌検査	
		陰性(-)	陽性(+)
ペプシノゲン検査	陰性(-)	A群 0% (0/2,802)	B群 0.21%* (7/3,395)
	陽性(+)	C群 1.87% ** (39/2,089)	

** : p<0.001(v.s.A群、B群)、* : p<0.05(v.s.A群)

(井上和彦: Gastro-Health Now, 2010;12:1-3)

図2
8,286名を14年間追跡。A群2,802名からは胃がんは出現せず。B群3,395名からは7例(0.21%)、C群2,098名からは39例(1.87%)の胃がんが出現。ABC検診ではB、C群をハイリスクと位置づける。



花仁塾 開塾

秩父病院だより春号でお知らせした花仁塾が、10月1日、開塾しました。さまざまな方面の医療人が花仁塾の志に賛同し、入塾の申し込みは徐々に増えつつあります。塾生は現在、当院で学んだ研修医10名 他施設の医師をはじめとする職員4名 当院職員10名です。

今後の活動としては、勉強会や検討会、秩父病院が主催する病院旅行や、ヨット、スキー等予定しています。共に学び、共に遊び、交流を深めていきたいと考えています。

※花仁塾の詳細については「秩父病院だよりNo.44」または「秩父病院ホームページ 院長ブログ」をご覧ください。

学会発表



2015年11月21日に開催された埼玉県外科集談会で、研修医の大石典子先生が発表しました。演題は「バッシング乳頭部嵌頓結石による急性膵炎の1症例」です。

大石先生は日本医科大学の初期研修医で、当院で1ヵ月間、地域医療研修をしました。院長先生と外科の守麻理子先生も学会に参加しましたが、共同演者の応援の必要は無く、堂々とした立派な発表でした。

今後も、若い先生方には、多くの学会に参加していただくと考えています。